

2022年1月17日宮古地域運営協議会

県立山田病院 の現状と取り 組み

病院長 宮本伸也

基本理念

患者さんとの信頼関係をもとに安心と最善の医療を行います。

基本方針

1. 私たちは患者さんとの信頼関係を築くためにあらゆる努力をいたします。
2. 私たちは医療の質向上に努め、日々研鑽し責任感を持って診療を行います。
3. 私たちは地域との円滑な医療連携に努めます。
4. 私たちは清潔で明るい環境作りに努め、健全な病院にします。

県立山田病院運営方針

病院の特色

東日本大震災津波の被災後は仮設診療所で外来診療を行っていたが、2016年9月から山田町の公共防災エリアに新築した病院で入院診療を再開し、現在に至っている。

病棟数は一般病床50床であり、主に回復期、慢性期の患者さんを受け入れている。

診療時間内の1次救急患者の受け入れのほか、メディカルショートステイ入院、糖尿病の教育入院などの生活習慣病への対応も行っている。

在宅医療にも取り組んでおり、訪問診療、訪問看護継続している。

新型コロナウイルス感染症の外来及び入院診療を基幹病院と連携して行っている。

病院の運営

- ▶ 常勤医3名体制（内科）のほか、診療応援による診療を行っている。
- ▶ 内科、小児科、外科、整形外科、眼科は、宮古病院、中央病院及び岩手医科大学等からの応援を得て外来診療を行っている。
- ▶ 医師以外の医療スタッフについても、基幹病院である宮古病院と連携・協力し、相互に業務応援や研修を行っている。
- ▶ 山田町と協力して町内での「出前健康講座」や「糖尿病重症化・合併症予防教室」などを定期開催し、町民の健康づくり等に努めている。
- ▶ 特定検診の際に、禁煙外来、睡眠時無呼吸検査やメディカルショートステイ入院の紹介を行うなどの活動を行っている。
- ▶ 医療の質の向上などを目的に病院機能評価を受審し、平成30年4月に認定を受けており、認定後の継続した改善活動を行っている。
- ▶ 病院広報誌や療養支援だよりなどの定期発行、ホームページの随時更新など広報活動を進め、病院を身近に感じてもらえるように取り組んでいる。

医師等の確保

医師支援推進室との連携による常勤医確保の取り組みや、臨床研修協力施設として、初期臨床研修医の受入れなどを実施している。

当直医の確保は、県立病院を退職した医師を個別訪問し協力を依頼するなど、継続して取り組んでいる。

宮古高等看護学院の老年看護実習学生を受け入れている。

オープンホスピタル山田病院まつりの開催（今年度は見送り）や中学生を対象とした職場体験を受入れ、医師、看護師等の医療職への進路に関心を高めてもらうような取り組みを実施している。

山田町及び山田町の地域医療を守る会と協力し、医師確保や環境整備などの活動をしている。

	仮設診療所	新病院(50床)				
	H27	H29.	H30	H30	R1	R3
内科	2	3	3	4	3	3
外科	1	1	週1(木)		週4(月～木)	週5(月～金)
整形外科	応援	週1(月)午後				
小児科	応援	月(第1、3月)午後				
眼科	応援	週2(月、水)午前				
薬剤師	1	2	2	2	2	2
放射線技師	1	2	2	2	2	2
臨床検査技師	2	3	3	2	2	2
理学療法士	0	1	1	1	1	1
栄養管理士	非常勤	1	1	1	1	1
看護職員(正規)	12	29	28	31	31	29
看護職員(会計年度任用)	5	6	6	5	5	7.4

県立山田病院医療スタッフ

浜風

岩手県立山田病院広報誌
新春号 Vol.13



院長年頭あいさつ

明けましておめでとうございます。新年にあたり、令和3年が皆様にとりまして素晴らしい年となることをご祈念申し上げます。

令和2年は本来東京オリンピックイヤーのはずでしたが、令和3年に延期となり、新型コロナウイルス感染症に翻弄された年でした。人と人との接触を制限するために社会活動が制約され、経済も大きく停滞しました。普段の生活でも、外出時にはマスク着用が当たり前となり、リモートワークなど多くの人の働き方にも変化が生じました。職員の健康管理の徹底は当然ですが、患者様等出入口の動線を物理的に分け、かつ、入口になる玄関においてすべての方々に検温チェックを行い、その疑いのある患者様には車での待機や発熱外来での診察対応をおこなっています。そして入院患者様のご家族には大変ご迷惑をお掛けしておりますが、入院患者様への面会をご遠慮いただき、簡単に「ウイルスを入れない」、「クラスターを発生させない」努力を行っています。

今年には「オンライン面会」も導入されます。何月になるかまだ分かりませんが、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まる予定です。地域の皆様の

健康を守る医療機関としてその使命を遂行することをお伝えし、新年のご挨拶とさせていただきます。

発行日 令和 3年 1月
発行 山田病院広報・ホームページ委員会
〒028-1352 岩手県下閉伊郡山田町飯岡第1地割21番地1
TEL 0193-82-2111
URL <http://www.pref.iwate.jp/iryoukyoku/index.html>



診療日程表

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
休日	休診		休診		休診		休診		休診	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
休日	休診		休診		休診		休診		休診	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



診療日程表

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
休日	休診		休診		休診		休診		休診	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
休日	休診		休診		休診		休診		休診	
内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

編集後記

新しい年、2021年を迎えまして今年の干支は、辛丑（かのとうし）なそうです。干支は、十干と十二支を組み合わせた60を同期とする数詞のことですが、年、月日のほかには時間や方位などに用いられています。十二支の順番の由来は古くから伝わる民話によれば、元日の朝、神様に挨拶に来た順ということですが、うしは早くから支度をして出発し1番に着いた時に、背中に乗っていたネズミが飛び降りて神様に挨拶したことになります。今冬は、例年に比べても寒い日が続く、山田町でも12月から積雪があつて、凍結した路面を走行したり歩行したりするには、気を遣います。うしのように準備をして早めに出発し、着実に一歩一歩進んでいく1年にしたいと思います。



フットケア外来のご紹介

● 日 時 毎週水曜日 ・ 14時00分～ ・ 15時00分～ (予約制:1日2名まで)

● 対 象 当院に通院中の糖尿病治療を受けている患者さんで、
糖尿病専門医師からケアが必要と診断された方

フットケア外来って何をやるの？

フットケア外来は、糖尿病による足のトラブルを早い時期に発見し、重症化しないように適切なケアを行ない、足のお手入れ方法についてアドバイスするところです。

なぜ足に気をつけるの？

糖尿病と足は深い関係があり、足には病気がらくるさまざまな問題が起りやすくなります。足は日常目にふれにくく、病気に気づきにくいので、早めに治療が行えるようにするためです。

誰がしてくれるの？

フットケアの研修を受けた糖尿病療養指導士が行います。

フットケア外来までの流れ

- ・糖尿病専門医師が診察後、フットケアの外来の予約を取ります。
- ・当日は予約時間の10分前までに内科外来へ来ていただきます。

岩手県立山田病院 内科・外科

医療社会事業士による医療相談のお知らせ

医療社会事業士(メディカル・ソーシャル・ワーカー)による医療相談を、次のとおり行っています。お困りごとや心配ごとなどがありましたら、お気軽にご相談ください。

● 相談日時 毎月1回、第3水曜日 午後1時30分～午後4時30分
【1月は20日、2月は17日、3月は17日です。】

● 相談場所 1階 相談室

● 相談職員 中野孝子 医療社会事業士(社会福祉士)

● 相談内容 たとえば、こんな時にご相談ください。
・退院後の生活のこと、各種制度の内容や手続き
・医療費や生活費、病気についての不安や悩みごと
・療養上の疑問や問題、当院への苦情やご意見など

● 相談料 当院で診療を受けている患者さん、ご家族

● 初診料 無料

● 利用方法 予約不要ですが、スムーズなご相談のためにご予約をお勧めします。
看護なんでも相談または、受付窓口のへようすも申し出てください。



中野孝子 医療社会事業士

令和2年度 永年勤続表彰受賞



岩手県職員表彰受賞
主任理学療法士 松澤美加子
医療局職員表彰
主査室長 高橋志保

令和2年度山田病院では、お二人がそれぞれ岩手県職員表彰(勤続25年)・医療局職員表彰(勤続20年)を受賞されました。長年の功績に心より感謝し、お祝い申し上げます。これからも後進の指導など岩手の医療を支える活躍を期待いたします。

松澤美加子 主任理学療法士

このたびは本年勤続25年を授けただきありがとうございます。
25年の間にたくさんの職場の方々や患者様と出会い、社会人としても理学療法士としても育てていただきました。25年もの長い期間勤めることが出来たのも協力や指導をしてくださる職場の方々、家族の支えがあったからだ深く感謝しています。今後も家族や、職場の方々、患者様への感謝の気持ちを忘れずに健康に気をつけ、頑張っていきたいと思っております。これからも皆さんよろしくお願ひします。

高橋志保 主査室長

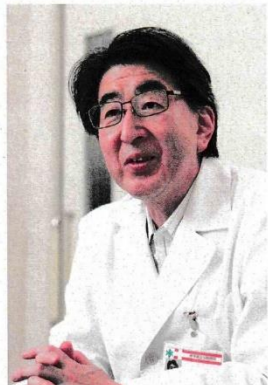
この度は、皆様のおかげでなんとか勤続20年を迎えることができました。ありがとうございます。20年、長かったような、短かったような・・・という感じで、まさか20年も働き続けることができるとは思っていませんでした。楽しいときには一緒に笑い、辛いときには助けてくれた家族、友人、職場の多くの方々には感謝しかありません。定年まであと半年とちょっと、このご恩を全部お返しするのはなかなか難しいかもしれませんが、少しでもお返しできたらなと思います。20年経っても更なる成長が多々ありますが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます！





町を盛り上げることも医療者としての役割 専門を生かし補い合うことで地域に貢献する

岩手県立山田病院



院長 宮本 伸也氏

- 1982年 岩手医科大学医学部 卒業
- 1985年 岩手県立大船渡病院 第3内科医長
- 1986年 同第2内科医長
- 1989年 岩手県立宮古病院 第3内科医長
- 1992年 同呼吸器科医長
- 1993年 同呼吸器科医長
- 2007年 同副院長 兼 呼吸器科医長
- 2015年 岩手県立山田病院 院長、兼 岩手県立宮古病院 副院長

大震災の被災を経て復活した 地域になくてはならない病院

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、岩手県の沿岸部にも大きな被害をもたらした。三陸海岸に面した山田町にある岩手県立山田病院は、2006年に新築した建物の1階天井まで浸水し、病院機能を喪失。しかし、翌日には被災していない2階を利用して外来診療を再開、4ヶ月後には仮設診療所でも診療を開始し、困難を乗り越え地域の人々の命と健康を守り続けた。そして日本全国からの多くの支援を受け、2016年9月1日、震災前とはほぼ同規模で新たな岩手県立山田病院が開院した。

「当院は、この地域になくてはならない大切な病院として、再建されました」と言う院長の宮本伸也氏は、震災以前は同じ宮古医療圏にある岩手県立宮古病院に勤務。応援診療で同院を訪れていたが、震災後の仮設診療所から同院勤務となり、復活までの道のりを共に歩んできた。

一人でも診なくても良い 専門を生かし協力し合える体制

同院では医療の充実を図るため医師を募集しているが、宮本氏が求める人材は「何でも診て何でも一人でもできる医師でなくとも良い」のだと言う。

「一人でも診られる医師は理想的ですが、何でも全てを。求めるのと過重労働につながることもある。私は様々な専門家とそれをマージする人がいて、それぞれが得意なことを生かして協力、連携していければ良いと考えています」

同院の常勤医師は、呼吸器科、腎臓・リウマチの専門医だ。他科は直ちも含めて、岩手県立宮古病院や岩手医科大学等から応援がある。そして山田町には内・外科、皮膚科、整形外科、循環器内科の開業医がおり、福祉、介護施設や行政との密接な連携も実現している。

「現在、不足しているのは消化器内科、内分泌の専門医。得意なことを生かし、地域貢献してくれ方を求めます。様々な経験を積んで退職し、今まで

特定の臓器を診てきたが、今後は腰を落として患者さんを広く診てみたい。とお考えの方が当院には合っているかもしれません」

「自分は専門だけに診られないから地域医療は無理」と考える医師がいるのはもったいないことだと言った。

「もちろん、ある程度広く診ることは必要ですが、専門の知識や技術を持った医師はどの科でも地域の人々から歓迎されます。そして専門を地域医療に生かすことは地域のためになるだけではなく、自身の研鑽にもなるのです」

同院は「コンパクトな地域のコンパクトな病院。情熱さえあれば、医師は自分のやりたいことを比較的自由にできる環境がある。人員数こそ多くはないが「皆

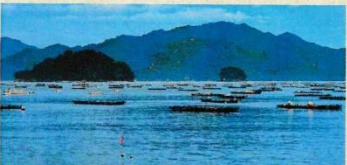
PICK UP 風光明媚な三陸海岸沿いの町で 予防・啓発といった役割も担う

病気に対する理解を深める取り組み

「薬を出すだけではなく、まず患者さんに病気を理解してもらうことが大切」という宮本氏。糖尿病、高血圧、腎臓病予防等の勉強会や出前健康講座を開催。医師・薬剤師・管理栄養士等が積極的に地域へ出て、地域住民の近くで予防・啓発に努めている。教育入院にも対応している。

ドラマの舞台としても知られる三陸海岸

三陸海岸に面した山田町は、カキ・ホタテ等の海産物やマツタケ等の山の幸も豊富。県内では気候が穏やかで雪も少なく、住みやすい地域だ。テレビドラマで有名になった三陸鉄道の駅もあり、三陸縦貫自動車道等の整備で交通の便が格段に良くなり、全線開通すれば宮古・盛岡間は車で約1時間15分、現在でも宮古から同院までは約30分、花巻空港からは釜石を経由して約1時間半で行き来できる。



【施設情報】

- 診療科：内科 外科 小児科 整形外科 眼科 リハビリテーション科
- 病床数：50床
- 医師数：常勤3名/非常勤7名
- 患者数：外来 86人/日、入院 25人/日

岩手県立山田病院

- 募集科目：内・外 ●給与：年収1,100万円～1,720万円(税込) 卒後10年モデル1,350万円～1,640万円(税込) ※固定残業代は給与に含まない。試用期間なし ●業務内容：外来診療、入院診療、訪問診療、当直業務等(その一部でも可) ●経歴：不問 ●勤務日数/常勤：月20日程度、非常勤の場合応相談 ●当直/あり ※応相談(病棟対応のみ、急患対応なし) ●勤務時間：8:30～17:15 ※応相談 ●休日/常勤：土・日・祝日・年次有給休暇・夏季休暇 ●待遇：社会保険完備、学費参加費用補助、研究図書費用補助等 ●勤務地：岩手県下閉伊郡山田町飯岡第1地割21-1 ●交通：三陸鉄道「陸中山田駅」から徒歩15分

応募・問い合わせ

担当まで直接お電話ください。または、
〒028-1352 岩手県下閉伊郡山田町飯岡第1地割21-1

E-MAIL ea1017@pref.iwate.jp

URL <https://www.pref.iwate.jp/iryukyoku/yamada/index.html>

TEL 0193-82-2111 【担当：事務局 藤澤正志】



機能分化、連携を強化し 基幹病院ではできない医療を提供

岩手県は北海道に次いで県域が広く、医療の偏在の解決が課題となってきた。そのため県では、医療の空白地を作らず、人柄がよく優秀で連携しやすく、地域の人々、患者さん程や、動きやすいと宮本氏。また、県立病院の一員であるため給与や待遇、福利厚生等は県の規定で定められており、子育て支援のための短時間勤務等の制度も利用できる。

「10年一区切りと言いますが、今年で震災から9年。当院の経営も軌道に乗り、今後は連携でバランスをとりながら、発展させて行くことが必要になります。私は医療者は本来、医療だけに携われば良いのではなく、地域に何かしらの貢献をするべきだと考えています。当院だけではなく、大好きな山田町が発展し、さらに良い町になることが私の願い。地域の人々と共に、町を盛り上げていければと思います。そのために、ぜひ、ご自身の経験をここで生かしてください」

調や、さらに近年増加する災害も勘案。検討を重ね安全を第一に考えた結果、消防署や交番も置かれ、山田町防犯エリアとして再整備される高台を建設場所に決めた。また、病院へのアクセスを改善するために道路も整備。山田町は高齢化率が30%以上で高齢患者も多いことから、敷地内に県や民間企業が運営する複数の路線バス停留所も設けています。また、院内ではクラウド型電子カルテを導入し、重要なデータをクラウド上でバックアップするシステムを整えました」

これらの対策は大いに効果を発揮し、2019年の台風19号では同院は被害を免れ、情報収集、被災した在宅酸素療法患者の受け入れ、入院患者への備蓄食による食事提供等で地域に貢献した。

岩手県は北海道に次いで県域が広く、医療の偏在の解決が課題となってきた。そのため県では、医療の空白地を作らず、人柄がよく優秀で連携しやすく、地域の人々、患者さん程や、動きやすいと宮本氏。また、県立病院の一員であるため給与や待遇、福利厚生等は県の規定で定められており、子育て支援のための短時間勤務等の制度も利用できる。

東日本大震災で一度は病院機能を失った岩手県立山田病院は、震災後5年で再建。県内の医療機関等と補完し合いながら、基幹病院ではできない医療を地域に提供した。そして院長の宮本伸也氏は、医療というアプローチで、自身が愛する地域の発展を目指している。

県内どこでも同様の医療を受けられるよう、県立病院の充実にも努めてきた。そして限られたリソースの中で必要な医療を提供できるような、機能分化・連携を強化している。

「車で30分程度の距離にある岩手県立宮古病院が急性期や救急医療、当院は回復期・慢性期等を担当し、補完し合っています。日中の救急は当院でも診察しています。休日や、循環器、脳疾患等の急性疾患は岩手県立宮古病院が担当。急性期を過ぎれば患者さんは当院に戻ります。各県立病院の院長同士は顔見知りで、何かあれば医療圏に問わず、電話ひとつで助け合える関係。これは非常に心強いことです。また、大学病院との結びつきも強く、宮古医師会の先生方もお互いに顔が見え、非常に診療しやすい環境があります」

宮本氏は周囲の協力を得ながら、「基幹病院ではできない医療を提供する」ことを同院の使命と考えていると言った。

「例えば、高血圧や糖尿病等の高齢者の疾患は全て診ます。その上で、レスパイト入院(デイカルシウム)ストレス、腫

山田病院の課題

包括支援システムの構築のため、また安定した経営のために、包括ケア病床の導入や在宅療養支援病院の再届け出を検討中であるがスタッフ不足のため現状では困難

当院に対する住民要望は、①入院施設での療養、②診療科医師の充実、③救急医療である。

基幹病院や周辺医療介護施設との連携やメディカルショートステイ、睡眠時無呼吸検査入院等工夫をしているが入院患者の確保が不十分